

平成 29 年度

事業報告書

社会福祉法人たつき会

1. はじめに

■法人事業概要

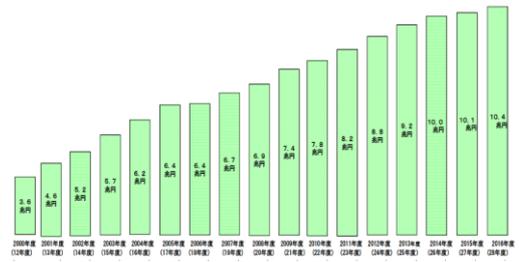
事業所名	介護老人福祉施設スミール桜ヶ丘
事業開始日	平成 27 年 12 月 1 日
第一種社会福祉事業	特別養護老人ホーム事業 (定員)100 名
第二種社会福祉事業	老人短期入所事業 (定員)10 名

■介護保険を取り巻く状況

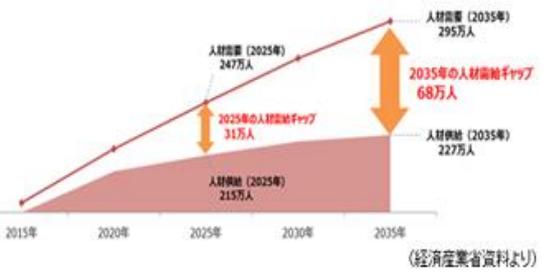
団塊の世代が 75 歳以上となり、医療ニーズを併せ持つ要介護者の増大が見込まれる 2025 年を見据えた介護保険事業計画の策定の中で、平成 29 年までを第 6 期計画と位置づけられています。

平成 30 年度は 6 年に一度の大規模な介護保険法の改正と介護報酬改定に加え、診療報酬改定の同時改定となります。医療と介護の一体改革に係る第 7 期計画に向け、更なる医療と介護の連携への取り組みが推進されることとなります。特養関連としては、自立支援や重度化防止に向けた医療的ケア、医療機関との連携が評価される内容が多く盛り込まれました。

平成 30 年度改正のもう一つのポイントとして、「介護保険制度の持続可能性の確保」が挙げられています。現在では、介護保険給付費が制度創設時から 3 倍となる 9 兆円を突破し、団塊ジュニア世代が 65 歳以上になる 2040 年には 30 兆円になると推定されています。平成 30 年 8 月には高い所得を有する利用者の負担割合が 3 割負担に引き上げられるなど、社会保障費の抑制が進められ、大幅な財源確保は難しいとの認識から報酬改定でも基本報酬については微増にとどまることとなりました。しかし直近の報告では、全国の特養の 3 割余りが赤字経営となり、平成 29 年度中に倒産した介護事業所が過去最多となるなど、今後法人運営においても更なる適切な取り組みが求められています。



また、平成 29 年度は社会福祉法の改正が施行され、組織のガバナンス強化・運営の透明性の向上などが求められ、法人としての運営にも大きな改革が必要となりました。



現政権の第 3 の矢「安心につながる社会保障(介護離職ゼロ)」のために、2020 年代初頭までに 12 万人増の介護サービスの整備が必要とされており、介護人材の確保が急務となっております。当法人としましても競合激化の中、人材確保に向けた更なる戦略的な取り組みが不可欠となっております。

2. 職員状況(平成30年3月31日現在)

	施設長	業務部長	介護支援専門員	生活相談員	管理栄養士	機能訓練指導員	看護師	介護職員	事務員	介護補助員	宿直員	合計
職員数	1	1	2	2	1	1	11	40	4	6	3	72

※職員数は非常勤(パート職員)を含む

3. 会議・委員会

会議名	参加者	実施状況	主な内容
職員会議	全職員	12回/年	施設運営に関する重要事項について情報の共有/ 新人職員紹介/研修報告/業務上の伝達事項
運営会議	施設長/役職者/専門職	12回/年	施設運営に関する業務進捗・結果等の報告と検討 事項の意思決定/問題事項の改善議論
リーダー会議	係長/ユニットリーダー	12回/年	業務遂行に関する事項の情報伝達・意見収集
ユニット会議	介護職員/専門職	20回/年	各ユニット単位で入居者様それぞれについて個別の ケア内容情報の共有
給食会議	役職者/管理栄養士/委託 業者社員	12回/年	給食委託先社員を交えて、適切な食事提供に関する 協議

委員会	実施状況	主な内容
入退所判定委員会	15回/年	入所の決定及び退所の検討を行い、待機者の方の入居順位を評価する。
褥瘡対策委員会	12回/年	入居者の褥瘡予防に努め、また発生時には対応方針を検討する。
感染症対策委員会	12回/年	感染症や食中毒の予防、及びまん延防止のための対策を検討する。
リスクマネジメント委員会	12回/年	施設内での事故防止を啓発する。
安全衛生委員会	12回/年	職員の労働安全と施設の衛生全般を監視し安全で衛生的な環境を形成する。
交通安全委員会	12回/年	公用車の安全運転を中心に、職員の安全運転に対する意識を啓発する。
環境美化委員会	12回/年	施設内の環境整備(美化)を啓発する。

4. 行事

4月	お花見	9月	敬老会	12月	クリスマス
5月	母の日会	10月	運動会	1月	お屠蘇
6月	父の日会	10月	ハロウィン	2月	節分
7月	七夕まつり	11月	文化祭	2月	バレンタインデー
8月	夏祭り	12月	2周年祭	3月	ホワイトデー

5. 平成 29 年度介護老人福祉施設スミール桜ヶ丘事業目標実績報告

1 ケアプランに基づく個別ケアの充実を図ると共に入居者の生活に楽しみや生きがいを持てるような取り組みを行う。

介護支援専門員 2 名体制での定期カンファレンスが定着したことや、歯科医師とともに進める経口維持計画、多職種による褥瘡予防計画を取り入れたことで、より個別ケアの充実を図ることができました。

入居者様に対して、習字など週 2 回のサークル活動と週 1 回の機能訓練を目的としたレクリエーションや、入居者様自身に調理をしていただくクッキングレクの開催、また給食委託業者と協力することで握りずしなど実演調理を月 1 回行うことで生活に楽しみや生きがいを感じてもらえるよう取り組みました。

介護相談員派遣等事業を利用して外部の介護相談員の訪問を受け入れることで、入居者様の日常の声を聴き、大和市との連携に努めました。また、ご家族との意見交換の場を設け、満足度調査を実施することで、日頃の貴重なご意見を承ることができました。

■サークル活動

サークル名	主な内容	実施状況
書道	師範の職員が中心となり書を創り、創作意欲を持っていただく。作品は文化祭で掲示。	48 回／年
ベタンク	屋外でテニスボールを使い投げる動作や狙いを定める行為で身体機能と脳を刺激する。	19 回／年
風船バレー	ゲーム感覚で楽しみながら身体機能を活性化していただく。	19 回／年
カラオケ	童謡だけでなく、懐かしの歌謡曲などを自ら選曲してマイクを持って歌っていただく。	12 回／年
阿波踊り体操	阿波踊りの動きや音楽を活用して、座位で行える体操を行い、健康づくりに取り組む。	11 回／年
Enjoy Cooking	入居者様自ら具材を切ったり、簡単な調理をして、出来上がったものを召し上がっていただく。	5 回／年
お散歩	施設の周りや花壇を見て回ったり、近隣の公園に外出をする。	3 回／年

■実演調理

4月	オムライス(あさなぎ)	8月	天丼(しおさい)	12月	ラーメン(のぎく)
5月	サンドウィッチ(ゆうなぎ)	9月	デザートヴェュッフエ(ひなた)	1月	ハンバーグ(わかみどり)
6月	チキン南蛮(わかみどり)	10月	パンバイキング(あさひ)	2月	精進揚げ(あさなぎ)
7月	夏野菜の天ぷら(しゅんよう)	11月	握りずし(全体)	3月	たらちり鍋(しおさい)

■苦情受付

区分	要望分類	対処
特養	相談	状況報告とご家族への協力依頼
特養	苦情	状況報告と改善内容を回答

■介護相談員派遣等事業

【 事業主体 】	大和市健康福祉部介護保険課
【 相談員 】	川原 敏子
【 訪問回数 】	10回／年

■満足度調査

【 調査日 】	平成30年3月～4月
【 対象 】	特養入居者ご家族様
【 回答数 】	72件

■意見交換会

【 日程 】	平成30年3月24日／25日
【 対象 】	特養入居者様／ご家族様
【 参加者数 】	計52名

II 働きやすい職場環境の整備と職員教育により職員の確保、定着と資質の向上、育成を図る。

職業生活と家庭生活の両立を支援するため男性職員が育児休業を取りやすい職場作りや、職員のキャリアアップを目的とした非正規雇用である派遣職員の正規雇用化について、計画の策定と法人内制度の整備を行い、平成29年度はそれぞれ1名ずつの実績を残しました。

職員研修や外部セミナーを活用した資質の向上・キャリアパス要件・労働環境整備に関する計画を作成実行し、処遇改善加算Ⅰの算定を届け出ることで、介護職員に対する待遇向上を図りました。

9月スキルアップ研修ではユニットでの1か月間に及ぶ個別集中ケアの取り組み発表を行いました。職員の介護力の向上と新たな気づきや達成感等モチベーションの向上につながりました。

■スキルアップ研修の開催

4月	事故発生の防止、及び身体拘束廃止について
5月	知って防ごう食中毒／感染症を知ろう
6月	非常災害対策
7月	褥瘡と褥瘡予防ケア
8月	精神的にストレスを溜めやすい人の考え方の特徴
9月	集中ケア取り組み発表

10月	知って防ごう！～ノロウィルス食中毒～
11月	メンタルヘルス
11月	腰痛予防体操
12月	非常災害対策
1月	法令遵守
3月	高齢者虐待防止について

■主な外部セミナーへの参加

6月	労務訴訟対策／助成金活用セミナー
7月	臨床検査学
8月	高齢者摂食嚥下・栄養サポート
9月	ユニットリーダー研修
9月	人生の最期を迎えるまでの栄養管理
9月	防火実務研修会
10月	介護報酬改定決起セミナー
10月	介護職員働き方改革セミナー
10月	セルフ・リーダーシップのすすめ

10月	糖尿病治療薬の工夫
11月	ユニットリーダー研修
11月	積極的な採用戦略
11月	大和市相談員会主催他施設見学会
12月	要介護高齢者における糖尿病治療
12月	経営労務管理研修
1月	特定給食施設等全体講習会
2月	栄養ケアマネジメント
2月	高齢者の権利擁護

Ⅲ安定した運営のため年間稼働率 93%を目指す。

定期的に発行している広報誌の活用や居宅支援事業所への継続的な広報活動を通じ、前年度比 26%増の申込数があったこと、また施設見学を積極的に受け入れたこともあり、退居に伴う入居者確保は円滑にできましたが、当初目標の稼働率は年間通して下回る結果となりました。入院者が稼働率を下げる大きな要因になっていることから、誤嚥性を含む肺炎をいかに防いでいくかが課題となっています。

■稼働率推移

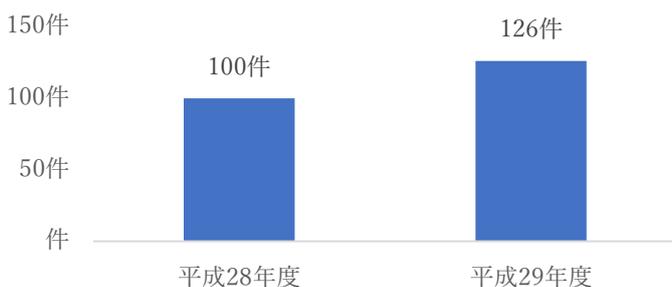
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延べ人数	2830名	2850名	2708名	2877名	2798名	2711名
稼働率	93.5%	91.9%	90.3%	92.8%	90.3%	90.3%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	2795名	2706名	2861名	2782名	2567名	2926名
稼働率	90.2%	90.2%	92.3%	89.7%	91.7%	94.4%

(参考)稼働率前年度比



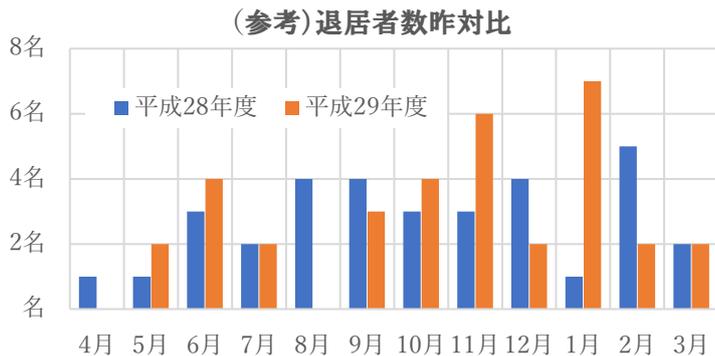
	計	
	(H29年度)	(H28年度)
延べ人数	33945名	32976名
稼働率	91.54%	90.35%

■申込数(前年度比)



■入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
入居	2名	2名	4名	2名	0名	2名
退居	0名	2名	4名	2名	0名	3名
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居	2名	6名	5名	4名	3名	3名
退居	4名	6名	2名	7名	2名	2名



	計	
	(H29年度)	(H28年度)
入居	35名	36名
退居	34名	33名

IV 社会福祉施設としての存在が地域の安心や信頼感につながるように、継続した交流を行うと共に協力関係を築いていく。

近隣の自治会に地域交流ホールを毎週貸し出すことや、商工会議所や社協などとの交流をもとに地域への情報発信を行いました。また、災害時や緊急時に施設を活用していただくための協定を大和市と締結し地域の社会資源としての協力体制を構築することができました。

前年は1校だった市内教育機関の実習等の受け入れを今期は3校に増やし、学生に介護現場を体験してもらう機会を創出することができました。これは入居者様や職員にとっても刺激となり、とても有意義なものとなりました。

■主な地域との関わり

1月	佐馬神社・八坂囃子連による獅子舞・神輿
5月	谷戸頭自治会への地域交流ホール定期貸出開始
6月	FMやまと出演
7月	宮久保自治会納涼祭への参加と飾り物提供
11月	やまと産業フェア出展
2月	やまと得する街のゼミナール出展

■ボランティアの受け入れ

オカリナ演奏	12回/年
アロマハンドマッサージ	6回/年
音楽バンド鑑賞	2回/年
囲碁対決	2回/年

■実習・職場体験の受け入れ

2月	上和田中学校
2月	柏木学園実業専門学校
3月	栄真学園

■大和市との指定機関協定

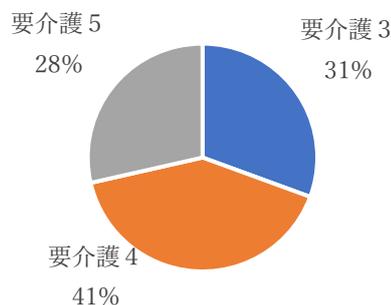
4月	大和市防災協定締結
8月	介護予防ポイント活動者受入機関指定
10月	やまと AED 救急ステーション認定

6. 介護老人福祉施設スミール桜ヶ丘入居者状況(平成30年3月31日現在)

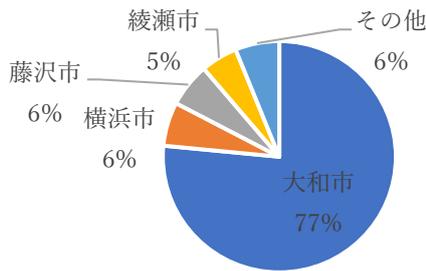
■入居者男女割合



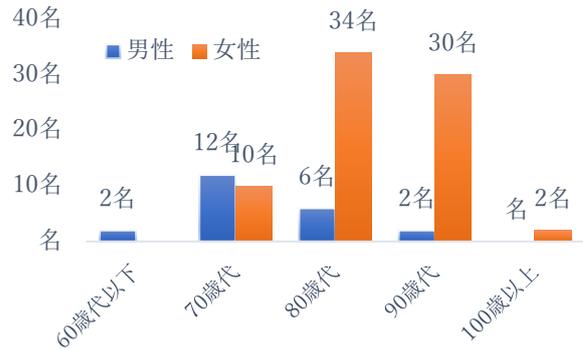
■入居者要介護度割合



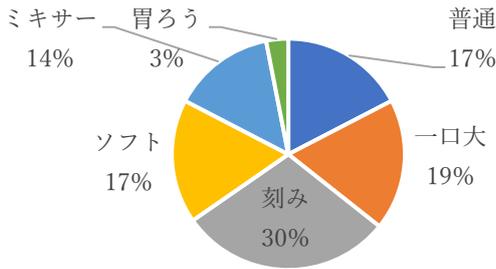
■保険者別入居者割合



■入居者男女年齢別状況



■食事の提供状況



(参考) 平成 28 年度状況

7. 平成 29 年度短期入所生活介護スミール桜ヶ丘事業目標実績報告

I 在宅での生活を継続できるような支援を行っていく。

利用者の状態や在宅環境の情報把握に努め、自身でできることは利用中も継続できるよう支援しました。特に移動や排せつについては在宅生活と同様の方法で生活できるよう努めました。また、全室に加湿器を設置するなど、住環境としての整備も行いました。

ショートステイの主な利用目的は、①ご家族の介護負担の軽減②介護者不在時の利用③特養等に入所できるまでの待機であります。それぞれの目的に応じて利用期間の調整が必要なため、担当ケアマネと連携して安心して利用していただけるよう努めました。

II 安定した運営のため年間稼働率 95%の達成を目指す。

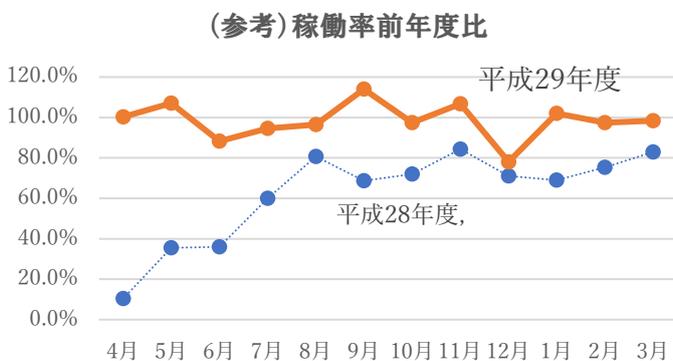
短期の宿泊施設としての機能があるショートステイにとって稼働率の確保には、居宅支援事業所等のケアマネとの信頼関係が不可欠であることから、利用者の様子を随時報告することを心掛け、サービス担当者会議には積極的に参加し、家族を含め意見や要望を確認し、改善点等は多職種で情報共有し協議しました。

これらの成果として、リピーターの獲得・空所情報の案内ができ、また入院により発生した特養の空所を利用することで、月間稼働率が 100%を超える月もあり当初の目標稼働率を達成することができました。

■稼働状況

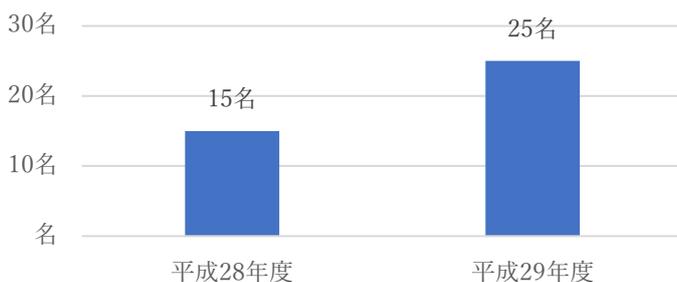
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	28名	28名	28名	25名	24名	31名
延べ人数	301名	332名	265名	293名	299名	342名
稼働率	100.3%	107.1%	88.3%	94.5%	96.5%	114.0%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実人数	25名	30名	26名	30名	28名	24名
延べ人数	302名	320名	242名	316名	273名	305名
稼働率	97.4%	106.7%	78.1%	101.9%	97.5%	98.4%



	計	
	(H29年度)	(H28年度)
実人数	93名	67名
延人数	3590名	2269名
稼働率	98.4%	62.1%

■年間5回以上の利用がある利用者実績

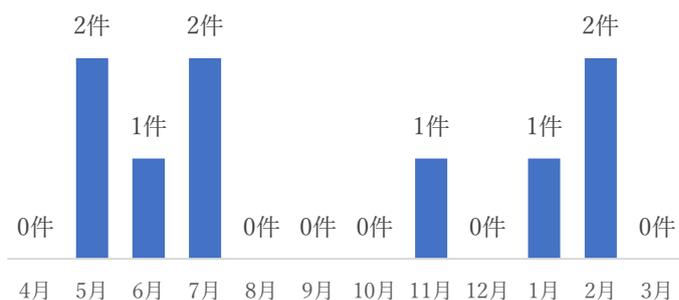


Ⅲ緊急ショートステイの受け入れを含めた、迅速かつスムーズな受け入れができるようにする。

本来ショートステイの利用には、居宅支援事業所の担当ケアマネによる計画的なサービス利用が必要となりますが、介護をされている家族の病気やケガなどで突発的にご自宅での介護をすることができなくなった場合、緊急で介護サービスが必要となります。これに対し、情報が少ない中でも、突発的な利用を受け入れるために柔軟な対応に努めました。

また、空き情報の問い合わせ等には、複数の職員で対応する体制を構築し迅速に回答することで、利用につなげることができました。

■緊急ショート受け入れ実績

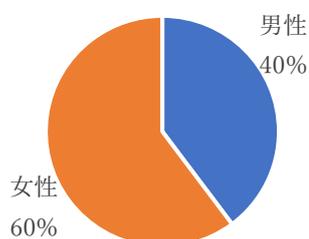


	計
実績	9件

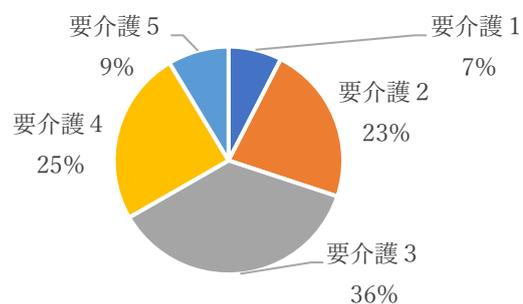
※前日または当日に利用依頼があった件数

8. 短期入所生活介護スミール桜ヶ丘利用者状況(平成29年度)

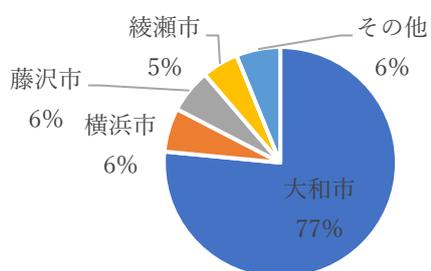
■利用者男女割合



■利用者要介護度割合



■保険者別入居者割合



■利用者男女年齢別状況

